

米利上げ催促相場で市場の混乱続く公算

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① S&P500種株価指数が弱気相場入り

インフレ抑制に向けFRB（米連邦準備制度理事会）が金融引き締めを加速させ、米国が景気後退に陥るとの懸念から、リスクオフの流れが強まっています。6月13日にS&P500種株価指数は3.9%安となり、1月3日の過去最高値から22%下落したことから、直近高値から20%以上下落した際に定義される「弱気相場」入りしました。米10年-2年国債利回り差がマイナスになると景気後退の予兆とされる「逆イールド」も再び迫っており、投資家は米景気後退に備えつつあるといえます（右上図）。

市場予想を上回る5月の米消費者物価指数を受け、FRBが6月14～15日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）で前回の0.5%から利上げ幅を拡大し、0.75%の利上げに動く可能性を市場はほぼ織り込みました。7月FOMCでの0.75%利上げの可能性も織り込みつつあり、FRBによる利上げ加速を警戒した売りが様々な資産に広がっています。

ポイント② FRBの金融引き締め加速姿勢が焦点

FRBにとってはインフレ抑制が最大の課題といえ、足元の株安については逆資産効果を通じて、「需要抑制→インフレ抑制」につながる側面もあることから、株安を容認する可能性が高いとみられます。実際、S&P500種株価指数が前年同月比でマイナスとなると消費（需要）が抑制される傾向がありました。

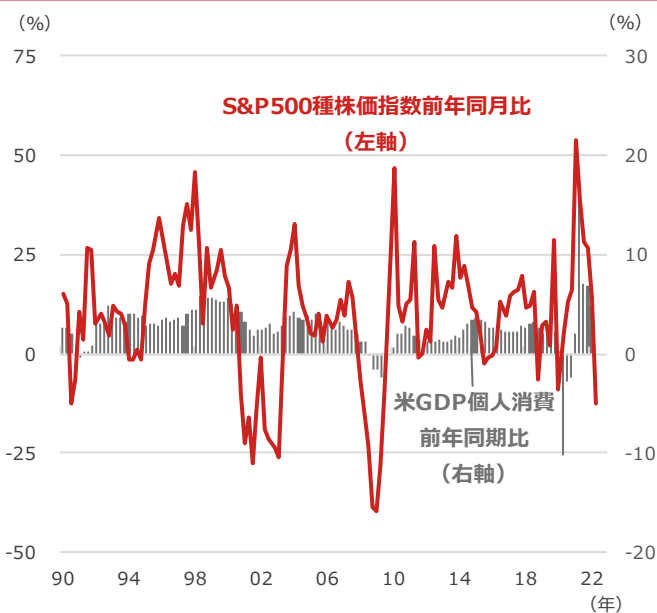
足元の市場の動きは株売りだけでなく、安全資産とされる米国債や金も大きく売られる展開となるなど、FRBによる利上げ加速を警戒したややパニック的な売りが出ていると考えられます。今週のFOMCで市場の過度な金融引き締めの織り込みに対して、FRBがどのような姿勢を示すかが目先の焦点となりそうです。

米10年-2年国債利回り差とS&P500種株価指数



期間：1987年1月2日～2022年6月13日、週次
・網掛け部分は景気後退局面
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米GDP（国内総生産）個人消費



期間：(S&P500種株価指数) 1990年3月末～2022年6月13日、四半期
(米GDP個人消費) 1990年1-3月期～2022年1-3月期、四半期
・S&P500種株価指数前年同月比の直近は2021年6月末と2022年6月13日の比較
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。